

卓 話

平成16年3月9日

米山奨学生 叶 冠林様

感謝の気持ち

一年はあっという間に過ぎ去りました。この一年間、カウンセラー中根さんと会長森さんをはじめ岐阜中クラブの皆さんに大変お世話になりました。

毎月、一週目の例会に出席させていただきましたが、皆さんは、日本語があまり上手くない私に対しても、暖かく接してくださいました。また夜間例会にも参加させていただきました。皆さんはクラブのことだけではなく、日本の社会文化や生活習慣も教えてくださいました。学校以外の日本の社会を知らない私にとって、このことは、素晴らしい経験でした。



さらに、この不景気の世の中で、毎月15万円の奨学金を与えてくださるロータリアンのおかげで、何不自由なく、好きな研究に没頭することが出来ました。研究成果としては、学会論文誌に一編論文が掲載されており、さらにもう一編を現在投稿中です。また、カナダとギリシャで開催された国際会議で口頭発表をさせていただき、今年に開かれる国際地盤工学会大会と国際地震工学会大会にも論文を投稿しています。奨学金を頂くことがなければ、このような研究結果は残せなかったと思います。皆さん、本当にありがとうございました。

米山奨学金をきっかけに私は、「奉仕の精神」を学びました。私はこの「感謝の気持ち」を持ち続けるため、今後は可能な限りボランティア活動を通して、ロータリアン、ひいては日本の社会に恩返しをしていきたいと思っています。

過去三年間の思い出

3年前、母校の先生の推薦を頂いて、専門知識を身に付けるとともに、日本の伝統文化や社会生活を深く理解するために、日本に留学にしてきました。そして、岐阜大学土木学科の八嶋研究室に入りました。この3年間をふりかえれば、生活に追われながら、研究に取り組むことで精一杯の毎日でした。

日本に来た初めのころ、一番ショックだったのはゴミのない綺麗で狭い街とテレビの番組でした。日本に来る前に日本は世界で一番綺麗な国で、生活環境がすごく狭いという話を聞きましたが、来て見たら想像以上にそうでびっくりしてしまいました。道路を走っている車のタイヤに泥がなく、まるで全てが新車のような気がしました。また、道路も狭い、人の家の出口は道路のすぐそばにある、自転車専用区域もありません。これは中国にあり得ないことです。テレビに放送している番組のほとんどはお笑い番組です。中国ではこのような番組はほとんどありません。これを初めに見たとき、すごくくだらないと思いました。三年が経ちますと、以上のことを何となく理解してきました。環境を守る心がある日本人の習慣。日本人はすごく緊張して生活していて、

ストレスが溜まっている。だから仕事が終わったら、なんにも考えず、ただテレビの中の人と一緒に笑えばいいのです。知らず知らずのうちに、私もこのような番組が好きになっていました。

楽しいこと、面白いこともいっぱいありました。日本に来たばかりの頃はテレビを持っていませんでした。日本の物価の高さに全然なれていない私は、1～2万円のテレビもなかなか買えませんでした。ある日、友達が大垣にコジマが開店し、キャンペーンを実施中で、安いテレビがあるかもしれないと教えてくれました。そして、3人で自転車で一時間もかかって、鏡島大橋を渡り、ついにコジマの看板を見つけました。そこで、また数百人の行列に交じり、3時間掛かってやっと原価15000円のテレビを9800円で買いました。しかし、一週間後には、学校の隣のコジマに同じ商品が2450円で売っていました。本当に悔しかった思い出として印象に残っています。

将来の展望

私の10年の学生生涯はそろそろ終わります。そして、四月に、人生の新しいスタートラインに立ちます。私は大阪の地域地盤環境研究所に就職することになりました。プランとして3年ぐらいそこに勤めてから、中国に帰って、大学の教師になりたいと思っています。

今後、育ててもらった両親、ご指導頂いた教官、そして、ロータリークラブの皆さんのことを忘れずに、世の中で活躍することのできる土木研究者となるよう、精一杯がんばっていきたいと思っています。今後とも、ご支援賜りますようによろしくお願いいたします。

最後に、この一年間、大変お世話になりましたロータリー岐阜中クラブの皆さんありがとうございました。皆様のご健勝をお祈りして、私のスピーチを終わりたいと思います。